

特集 最近の酒米研究

酒米試験地設立90周年を迎えて

酒米試験地は1928年7月3日に開設され、本年で90年を迎える。酒米試験地は酒米の品種育成と栽培技術の開発を担っており、これまでに育成した酒米品種は14品種、紫黒米品種は3品種である。栽培技術の開発は、機械化技術など水稻全般の栽培技術の進歩と共にやってきた。育種や栽培技術開発の目標は酒米試験地開設当時から現在まで一

貫して、本県特産の酒米の安定生産、品質向上である。最近はこれに加えて温暖化対策や輸出促進につながる育種や栽培技術の開発にICT技術も利用して取り組んでいる。最近の取り組みを紹介する。

澤田 富雄（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2411）

酒米新品種「Hyogo Sake 85」の育成

酒米新品種「Hyogo Sake 85」は、県北部向けの極早生種で、いもち病に強く、「兵庫北錦」や「五百万石」よりも白未熟粒の発生が少なく、心白は大きく、品質は優れる。高精米は不向きであるが、香りが出やすい酒造適性をもつ。

内容

「HyogoSake85」（写真）は1986年に酒米試験地において、韓国育成の超多収品種「水原258号」を母本に、「山田錦」を父本に用いて交配した品種である。日本酒の輸出促進を考慮して品種名を英語表記とした。現在、品種登録出願中である。

出穂、成熟期は「兵庫北錦」より2～3日早い極早生種である。稈長は「兵庫北錦」よりやや長く、耐倒伏性は「兵庫北錦」よりやや弱い。「五百万石」より強い。葉いもち圃場抵抗性は強で、耐冷性は「兵庫北錦」より強く、中程度である。収量性は「兵庫北錦」よりやや少ないが「五百万石」程度である。千粒重が27g台で、心白発現は多く、心白の大きさも大きい。乳白米などの白未熟粒が少なく、検査等級は「兵庫北錦」、「五百万石」より優れる。酒造適性は高精米には向かないが、発酵の消化性が良く、香りの高い酒ができる。

今後の方針

酒造メーカーの需要に応じて県北部での普及を図る。

Hyogo Sake 85

兵庫北錦

五百万石



写真 「Hyogo Sake 85」の^{もみ}籾と玄米

池上 勝（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2412）